

## 青森県高等学校野球連盟 沿革史

年号	主なできごと・戦績等
昭和 23 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学制改革により、青森県中等学校野球連盟から青森県高等学校野球連盟に改称。会長に小出義雄氏(青森高)、理事長には斎藤正博氏(青森一高)が就任。事務局を市立青森第一高校に置いた。加盟校は 19 校。</li> <li>・ 奥羽大会で青森高(5 - 3 青森一高)が優勝。戦後本県初の甲子園出場、全国大会で二回戦桐蔭高(和歌山県)と対戦し、2 - 5 で敗れた。</li> <li>・ 青森一高(現青森北高)が、部創立三年目にして県大会優勝を果たす。</li> </ul>
昭和 24 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第二代会長に松森勘蔵氏(青森工)が就任。</li> <li>・ 八戸工業が県大会初優勝を果たす。</li> <li>・ 6 月、弘前市内の中心地、弘前公園の一角に弘前市営球場が完成。</li> </ul>
昭和 25 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校が 23 校に増加。</li> <li>・ 4 月、青森市東部の合浦公園内に青森市営球場が完成。</li> <li>5 月、セントラルリーグの読売巨人球団と西日本鉄道球団の試合が行われ、巨人軍の藤本投手がプロ野球史上初の完全試合を達成した。</li> </ul>
昭和 26 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校が 28 校に増加。</li> <li>・ 第 33 回大会奥羽大会で延長 24 回(試合時間 4 時間 9 分)の末、青森高(1 - 0 盛岡一高)が優勝し、三度目の甲子園出場を果たす。全国大会では和歌山商業と対戦し、3 - 11 で敗れた。</li> <li>・ 10 月、八戸市長根公園内に八戸市営球場が完成した。</li> </ul>
昭和 27 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 27 校。</li> <li>・ 春・夏弘前勢(東奥義塾・弘前高)が活躍。</li> <li>・ 秋、青森工が八戸高を破り初優勝。</li> </ul>
昭和 28 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 26 校。</li> <li>・ 八戸勢が大活躍。春・夏、八戸高が優勝。秋、八戸商が優勝。</li> </ul>
昭和 29 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 27 校。</li> <li>・ 第 1 回春季東北六県野球大会が青森市で開催され、青森一高(6 - 1 新庄北高)が初優勝。8 月、青森一高は第 9 回北海道国体に出場し、5 - 16 で早稲田実業に敗れた。</li> </ul>
昭和 30 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 26 校。</li> <li>・ 第 2 回春季東北六県野球大会が青森市で開催され、八戸高(9 - 1 盛岡工)が優勝。</li> <li>・ 第 8 回秋季東北六県野球大会で、八戸高(3 - 1 秋田商)が優勝。</li> </ul>
昭和 31 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 八戸高が本県初の全国選抜大会出場し、準決勝進出。 (二回戦)14 - 3 寝屋川高 (準々決勝)3 - 2 堀川高 (準決勝)1 - 3 岐阜商</li> <li>・ 第三代会長に佐藤勇介氏(弘前商)が就任。</li> </ul>
昭和 32 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 月、立教・明治大学チームが来青し、立一明戦、立大新人一市内選抜軍の試合を行う。</li> </ul>

年号	主なできごと・戦績等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8 月、第三回日本－ハワイ親善高校野球を青森市営球場で行う。 青森選抜軍 1－5 ハワイ選抜</li> </ul>
昭和 33 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 25 校。</li> <li>・ 東奥義塾が第 12 回学生野球協会結成記念大会に出場。 (一回戦) 1－2 都立四商(東京)</li> <li>・ 第 40 回全国高校野球選手権大会に東奥義塾が初出場。 (一回戦) 1－6 高知商</li> </ul>
昭和 34 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 26 校。県高野連審判部が発足。</li> <li>・ 全国高校野球選手権大会地区の再編があり、本県と岩手県で二次予選が行われる。名称も北奥羽大会となる。</li> </ul>
昭和 35 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森高が四度目の甲子園出場を果たし、本県初の二回戦進出。 (一回戦) 1－0 東北高 (二回戦) 0－1 大宮高</li> <li>・ 全国大会二次予選(北奥羽大会)県代表二校ずつとなり、県大会の決勝は行われない。</li> </ul>
昭和 36 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校が 27 校に増加。</li> <li>・ 春季県大会で青森工の佐藤投手がノーヒット・ノーランを記録。</li> </ul>
昭和 37 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森一高宿願を果たして甲子園出場。(一回戦) 1－2 北海高</li> <li>・ 秋季東北大会(青森市で開催)で、本県初のTV中継が行われる。</li> </ul>
昭和 38 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青森一高が第 17 回学生野球協会結成記念大会に出場。 (二回戦) 2－10 習志野高</li> <li>・ 事務局が青森商に移転。</li> <li>・ 東奥義塾が二度目の甲子園出場(第 45 回記念大会)し、三回戦進出。 小笠原一選手がハワイ遠征軍に選ばれる。 (二回戦) 4－3 高知高 (三回戦) 1－3 今治西高</li> <li>・ 甲子園大会審判員として石郷岡五郎氏(青森地区支部長)を派遣。</li> </ul>
昭和 39 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新設校が続々加盟し、加盟校 34 校になる。</li> <li>・ 春季県大会で八戸電波高の石田投手が二度のノーヒット・ノーランを記録。</li> <li>・ 11 月、青森市営球場で高野連野球技術指導講習会が開催された。</li> </ul>
昭和 40 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加盟校 37 校となる。</li> <li>・ 第四代会長に小田桐孫一氏(弘前高)が就任。</li> <li>・ 八戸高が四度目の甲子園出場。(一回戦)八戸高 2－3 帯広三条</li> <li>・ 全国大会一次予選(県大会)に地区予選制を採用。</li> <li>・ 青森、弘前各 4 校に八戸 8 校、計 16 校で県大会開催。</li> </ul>
昭和 42 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局が青森一高に移転。</li> <li>・ 東奥義塾が三度目の甲子園大会に出場し、本県初のベスト 8 入りを果たす。前田、清藤の両選手がハワイ選抜軍に選ばれる。 (一回戦) 3－1 四日市高 (二回戦) 2－0 報徳学園</li> </ul>

年号	主なできごと・戦績等
	<p>(準々決勝) 0 - 5 広陵高</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東奥義塾、埼玉国体に出場。(一回戦) 3 - 4 大分商</li> <li>・10月、青森県営球場が完成。</li> </ul>
昭和43年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校38校。</li> <li>・三沢高、甲子園初出場(第50回記念大会)。初戦を突破し二回戦へ進出。 (一回戦) 7 - 0 鎮西高 (二回戦) 1 - 3 海星高</li> <li>・三沢高、秋季東北六県高校野球大会優勝。</li> </ul>
昭和44年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三沢高、選抜高校野球大会に初出場。初戦を突破し二回戦へ進出。 (一回戦) 4 - 2 小倉高 (二回戦) 2 - 4 浪華商</li> <li>・役員改選で、柿崎清春氏(青森一高)が理事長に就任。</li> <li>・三沢高、二年連続で甲子園に出場し準優勝。決勝戦で延長十八回再試合後、松山商に4 - 2で敗れる。 (一回戦) 3 - 2 大分商 (二回戦) 2 - 1 明星高 (準々決勝) 2 - 1 平安高 (準決勝) 3 - 2 玉島商</li> </ul>
昭和45年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が青森高校に移り、理事長に杉山昌成氏(青森高)が就任。</li> <li>・五所川原農林が甲子園初出場。(一回戦) 0 - 4 岐阜短大付</li> </ul>
昭和46年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前高、選抜高校野球大会初出場。(一回戦) 2 - 3 普天間高</li> <li>・加盟校が42校になる。第五代会長に鈴木太左衛門氏(青森高)が就任。</li> <li>・県政百年記念行事の一つとして秋季県大会が行われ、県知事より優勝旗、トロフィーが寄贈された。</li> </ul>
昭和47年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が43校になる。</li> <li>・青森県高野連史を刊行。</li> </ul>
昭和48年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が44校になる。</li> <li>・青森商が甲子園初出場(第55回記念大会)。(一回戦) 0 - 6 天理高</li> </ul>
昭和49年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校野球選手権大会地区の再編があり、本県と秋田県で二次予選が行われ、名称も奥羽大会となる。</li> <li>・甲子園大会審判員として須藤雅徳氏(青森地区支部長)を派遣。</li> </ul>
昭和50年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が48校になる。</li> <li>・第六代会長に安部健五氏(青森工)が就任。事務局が青森工に移る。</li> <li>・8月31日、青森商2年でセンターの虎谷芳規君が、対青森高市内リーグ戦の打席で投球を胸部に受けショック死。</li> </ul>
昭和51年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前工が選抜高校野球大会初出場。(一回戦) 2 - 3 岡山東商</li> <li>・甲子園大会審判員として中村武三氏(八戸地区支部長)を派遣。</li> </ul>
昭和52年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前実が第24回春季東北大会で優勝。</li> <li>・第32回「あすなる国体」(10月2日～7日)が青森市で開催される。本県代表の三沢高は東洋大姫路に1 - 6で敗れる。優勝は早稲田実業。</li> </ul>
昭和53年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第60回全国高校野球選手権記念大会を契機に一県一代表制となる。青森北高が2回目の甲子園出場を果たす。(一回戦) 4 - 8 熊本工大高</li> </ul>

年号	主なできごと・戦績等
昭和 54 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 50 校に増加。</li> <li>・弘前実が甲子園初出場(第 61 回大会)。(二回戦) 1 - 4 大分商</li> <li>・弘前市運動公園野球場竣工。</li> <li>・弘前市制 90 周年記念高校招聘野球開催。</li> </ul>
昭和 55 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 53 校に増加。</li> <li>・地区再編成が行われ、五所川原、むつ地区を新たに加え、従来の 4 地区から 6 地区になる。</li> <li>・五所川原、むつ地区に高野連附属審判部結成。</li> <li>・弘前工が夏の甲子園大会初出場。(二回戦) 0 - 5 熊本工</li> </ul>
昭和 56 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 54 校に増加。第七代会長に相馬邦義氏(青森工)が就任。</li> <li>・東奥義塾が四度目の甲子園大会出場。(一回戦) 0 - 5 鳥取西</li> <li>・高校野球指導者講習会開催。講師は石井連蔵氏(元早稲田大監督)</li> </ul>
昭和 57 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 58 校に増加。</li> <li>・木造が甲子園初出場(第 64 回大会)。(一回戦) 0 - 7 佐賀商</li> </ul>
昭和 58 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 62 校に増加。</li> <li>・青森北が選抜高校野球大会初出場。(一回戦) 0 - 10 明德義塾</li> <li>・八工大一高が甲子園初出場。(一回戦) 2 - 8 中津高</li> <li>・選手強化講習会開催。講師は石井好博氏(習志野高監督)</li> </ul>
昭和 59 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 63 校に増加。第八代会長に長内俊博氏(青森工)が就任。</li> <li>・弘前実が二度目の甲子園出場。(一回戦) 0 - 9 唐津商</li> <li>・第 37 回秋季東北大会で弘前工が優勝。</li> </ul>
昭和 60 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 64 校に増加。第九代会長に正木幹雄氏(青森工)が就任。</li> <li>・弘前工が二度目の選抜高校野球大会出場。(一回戦) 6 - 7 報徳学園</li> <li>・第 32 回春季東北大会で青森商が優勝し、青森山田が準優勝。</li> <li>・八戸高が五度目の甲子園出場を果たす。(二回戦) 0 - 3 川之江高</li> <li>・甲子園大会審判員として上原子利通氏(十和田地区支部長)を派遣。</li> </ul>
昭和 61 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 66 校に増加。第十代会長に杉山芬氏(青森北)、理事長に野村一郎(青森工)氏が就任。</li> <li>・三沢商が甲子園初出場。(一回戦) 0 - 7 甲西高</li> <li>・第 39 回秋季東北大会で八工大一高が優勝。</li> </ul>
昭和 62 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会長に長内俊博氏(青森商)が再び就任。</li> <li>・八工大一高が選抜高校野球大会初出場で、ベスト 8 に進出。本県勢として、18 年ぶりの甲子園での白星。(一回戦) 4 - 0 丸亀商 (二回戦) 4 - 0 日向学院 (準々決勝) 2 - 3 関東一高</li> <li>・八工大一高が二度目の夏甲子園出場。(一回戦) 4 - 5 池田高</li> </ul>
昭和 63 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 67 校に増加。</li> <li>・弘前工が二度目の夏の甲子園大会出場。(一回戦) 4 - 8 宮崎南高</li> </ul>

年号	主なできごと・戦績等
平成元年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前工が三度目の夏の甲子園大会出場。初戦(5 - 1 石川高)を突破し、本県勢として夏20年ぶりの勝利を挙げる。(三回戦)1 - 2 仙台育英高</li> </ul>
平成2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県地区大会から大会協力金を一般400円から500円に値上げする。</li> <li>・八工大一高が三度目の夏甲子園出場。(二回戦)2 - 3 境高</li> </ul>
平成3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十一代会長に坪田練一氏(青森商)が就任。</li> <li>・県内の大会におけるベンチ入りの人数が20人に増員される。</li> <li>・弘前実が三度目の甲子園出場。一回戦(6 - 2 川之江高)を突破し、二回戦進出。(二回戦)4 - 13 池田高</li> <li>・県高野連の記録集「一球三礼」を創刊。</li> </ul>
平成4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弘前実が二年連続四度目の甲子園出場。(二回戦)1 - 8 池田高</li> <li>・甲子園大会審判員として佐々木秀美氏(弘前地区)を派遣。</li> </ul>
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十二代会長に佐藤力氏(青森工)が就任。</li> <li>・青森山田高が甲子園初出場。(一回戦)1 - 9 近大附高</li> </ul>
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局が青森北高に移転。</li> <li>・八戸高が六度目の甲子園出場を果たす。(一回戦)0 - 4 関西高</li> <li>・甲子園大会審判員として小山石清五郎氏(青森地区)を派遣。</li> </ul>
平成7年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十三代会長に斎藤昭氏(青森工)、理事長に阿部一雄氏(青森北)が就任。</li> <li>・6月、県営球場で日米親善国際高校野球大会が開催され、青森県選抜チームが10 - 9で米国高校選抜チームに勝利。</li> <li>・青森山田高が二度目の甲子園出場。初戦(7 - 6 尼崎北高)を突破し、三回戦進出。(三回戦)2 - 5 智辯学園</li> <li>・青森山田高が第42回春季東北大会で初優勝。</li> </ul>
平成8年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が68校に増加。第十四代会長に澤田高氏(青森工)が就任。</li> <li>・弘前実が五度目の甲子園出場。(一回戦)0 - 6 福井商</li> <li>・第49回秋季東北大会で光星学院が優勝し、青森山田が準優勝。</li> </ul>
平成9年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が70校に増加。理事長に福田裕行氏(八戸北高)が就任。</li> <li>・事務局が青森工に移る。</li> <li>・光星学院が選抜高校野球大会初出場。(一回戦)3 - 5 岡山南</li> <li>・光星学院が夏の甲子園大会大会初出場。(一回戦)9 - 10 佐賀商</li> <li>・甲子園大会審判員として小坂徹氏(十和田地区支部長)を派遣。</li> </ul>
平成10年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十五代会長に水木厚美氏(青森工)が就任。</li> <li>・光星学院が二年連続二度目の選抜大会出場。(二回戦)2 - 3 豊田西高</li> <li>・八工大一高が四度目の夏甲子園出場。(一回戦)0 - 4 鹿児島実</li> </ul>
平成11年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森山田高が三度目の甲子園出場。3勝をあげ、本県勢としては夏の甲子園大会では三沢高以来30年ぶりとなるベスト8に進出。</li> <li>(一回戦)3 - 2 九州学院高 (二回戦)9 - 3 東福岡高</li> <li>(三回戦)7 - 4 日田林工 (準々決勝)0 - 4 樟南高</li> </ul>

年号	主なできごと・戦績等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北選抜メンバーによるハワイ遠征が行われ、本県からは工藤亮(弘前高)、中田生太(黒石商)、大久保敬章(八工大一高)の三選手が参加。</li> <li>・10月、青森市で県内高校野球指導者・選手を対象に、日本高野連の牧野直隆会長による講演会が開催された。演題「高校野球に思う」</li> <li>・11月、県の競技力向上対策事業(パワフル事業)として、指導者16名、選手26名が明治神宮大会観戦・研修会を行う。</li> </ul>
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十六代会長に葛西守人氏(青森工)が就任。</li> <li>・6月、青森市営球場が改修工事を終える。</li> <li>・光星学院が二度目の夏の甲子園大会大会出場。接戦を勝ち上がり、準決勝に進出。 (二回戦)10－8丹原高 (三回戦)4－3九州学院高 (準々決勝)2－1樟南高 (準決勝)5－7智辯和歌山高</li> </ul>
平成13年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が75校に増加。理事長に柿崎泰明氏(青森工)が就任。</li> <li>・光星学院が二年連続三度目の夏の甲子園大会大会出場。二年連続ベスト8進出の快挙を達成する。 (二回戦)9－2初芝橋本高 (三回戦)3－2神崎高 (準々決勝)6－8近江高</li> <li>・10月、青森市で全日本野球会議指導者育成会主催による「野球指導者講習会」が開催され、県内の野球指導者103名が参加。</li> <li>・甲子園大会審判員として階上金三郎氏(八戸地区)を派遣。</li> </ul>
平成14年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十七代会長に石山隆司氏(青森工)が就任。</li> <li>・大雨による被害のため使用不能の八戸長根球場が2年半ぶりに復旧。</li> <li>・青森山田高が三度目の甲子園出場。一回戦(6－3開星高)を突破し、二回戦進出。(二回戦)3－9明德義塾高</li> <li>・11月、青森市営球場で少年野球育成事業「高校球児と野球を楽しもう」が行われ、市内260名の小学生(4年生～6年生)が参加。</li> </ul>
平成15年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光星学院が四度目の夏の甲子園大会大会出場。三勝をあげ、同校三度目となるベスト8に進出。 (一回戦)6－3必由館高 (二回戦)3－1木更津総合高 (三回戦)4－0倉敷工 (準々決勝)1－2東北高</li> <li>・第58回静岡国体で光星学院が優勝。</li> </ul>
平成16年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森山田高が四度目の甲子園出場。天理高(4－3)にサヨナラ負け。</li> <li>・8月、「甲子園研修」が3泊4日の日程で行われ、指導者6名、生徒21名が参加。</li> <li>・12月、青森市でプロ野球現役選手によるシンポジウム「夢の向こうに」 in 青森を開催。平内町出身の細川亨捕手(西武ライオンズ)、井川慶投手(阪神タイガース)らが講師を務める。</li> <li>・甲子園大会審判員として成田喜代志氏(五所川原地区)を派遣。</li> </ul>

年号	主なできごと・戦績等
平成 17 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 76 校に増加。第十八代会長に白川公正氏(青森工)、理事長に石戸谷公造氏(弘前実)が就任。</li> <li>・青森山田高が選抜高校野球大会初出場。(一回戦) 3 - 16 沖縄尚学</li> <li>・青森山田高が第 52 回春季東北大会で二度目の優勝を果たす。</li> <li>・青森山田高が二年連続五度目の夏甲子園出場。2 勝をあげ三回戦進出。 (一回戦) 7 - 5 智辯和歌山高 (二回戦) 3 - 0 国士舘高 (三回戦) 2 - 4 東北高</li> </ul>
平成 18 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光星学院が三度目の選抜大会出場。(一回戦) 4 - 6 関西高</li> <li>・光星学院が第 53 回春季東北大会で初優勝。</li> <li>・青森山田高が三年連続六度目の夏甲子園出場。一回戦(7 - 0 延岡学園)を突破し、二回戦進出。(二回戦) 9 - 10 駒大苫小牧高</li> </ul>
平成 19 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森山田高が四年連続七度目の夏甲子園出場。一回戦(5 - 0 報徳学園)を突破し、二回戦進出。(二回戦) 4 - 6 聖光学院</li> <li>・里村輝・青森高監督(神奈川県へ)、野月隆司・十和田工監督(徳島県へ)を長期県外研修に派遣。</li> </ul>
平成 20 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第十九代会長に柿崎泰明氏(青森工)が就任。</li> <li>・青森山田高が第 55 回春季東北大会で三年ぶり三度目の優勝を果たす。</li> <li>・青森山田高が五年連続八度目の夏甲子園出場。2 勝をあげ三回戦進出。県勢甲子園通算 30 勝の区切りの勝利となる。 (一回戦) 2 - 1 日本航空高 (二回戦) 4 - 0 本荘一高 (三回戦) 0 - 2 慶應高</li> <li>・光星学院が第 61 回秋季東北大会で 12 年ぶり二度目の優勝を果たす。</li> <li>・光星学院が第 39 回明治神宮野球大会に出場 (準々決勝) 2 - 4 慶應高</li> <li>・村上博樹・弘前南高監督(徳島県へ)、大湯輔・木造深浦高監督(静岡県へ)を長期県外研修に派遣。</li> </ul>
平成 21 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟校が 75 校となる。理事長に渡辺学氏(青森工)が就任。</li> <li>・光星学院が第 81 回選抜高校野球大会に出場。 (一回戦) 1 - 2 今治西高</li> <li>・青森山田高が六年連続九度目の夏甲子園出場。 (一回戦) 1 - 2 東農大二高</li> <li>・飛内尚人・むつ工監督(長崎県・千葉県へ)を長期県外研修に派遣。</li> </ul>